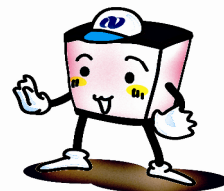
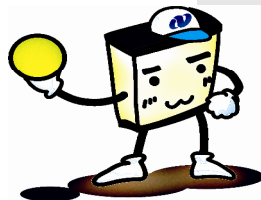


(5) チャレンジ キャッチボール(養える力:投力、巧緻性、協力、公正)

3分間、1つのボールを使ってキャッチボールを行い、何回捕球できたかを競う。

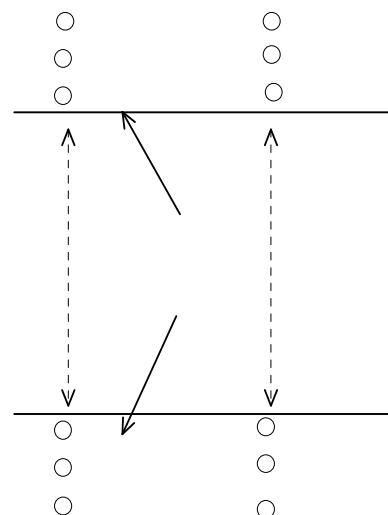
ア 準備

- ・ドッジボール ・ストップウォッチ
- ・平面上に、投球ラインを示す2本の直線を引く。(投球ラインはこの形でなければならない)
 - 1年生：4 m間隔
 - 2年生：5 m間隔
 - 3年生：6 m間隔
 - 4年生：7 m間隔
 - 5年生：8 m間隔
 - 6年生：9 m間隔
- 特別支援学級・小学部の学級：4 m間隔



イ 方法

- ・各グループがほぼ半数となるよう2つに分かれ、＜図1＞投球ライン後方に縦1列で向かい合って並ぶ。
(図1は、学級の人数が12人の場合の例)
- ・計時の「はじめ」の合図で始める。3分間たった時点で計時が「終わり」の合図をする。「終わり」の合図をした時点で、捕球した回数を記録とする。
- ・ファウル後ボールを保持した場合も捕球とする。
- ・投球ライン内での捕球及び投球はしてはならない。ただし、ファウルしボールが投球ライン内に入った場合は、中に入ってボールを捕ってもよい。また、投球ラインの中に入ってボールを投げた場合は、相手が捕球しても捕球回数に入れない。ただし、**前足が投球ラインを踏んで投げた場合は、オンラインとして捕球回数に入れてよい。**
- ・投球はノーバウンドで相手に届くように投げるのが望ましいが、投球ライン内でバウンドしてしまった場合も、投球ライン後方でボールを捕球すれば捕球回数に入れることができる。ただし、意図的にボールをバウンドさせたり、ボールを転がしたりして相手に投げてはいけない。
- ・投球フォーム、助走及びステップの距離は自由とする。
- ・投球後は、投球ラインの前方に入ってもよい。
- ・投球後は、同じ列の後ろに並ぶ。
- ・キャッチボールをする2人以外は、ボールに触れてはいけない。



ウ グループ編成

- ・通常学級は、学級をほぼ半数の2つのグループに分けて行う。
- ・3人以下の通常学級は、1つのグループで実施する。
- ・1人の学級は、異学年の児童（1人）と2人で行う。この場合、記録登録は、上の学年とする。
- ・特別支援学級及び小学部の学級は、学級全員で1つのグループとして実施する。特別支援学級で、在籍数が1人の場合は、特別支援学級に在籍する児童と同学年の通常学級児童を1人加え、2人で行う。

エ 記録と参加人数

- ・ 2つのグループが捕球できた回数の合計を記録とする。
- ・ 2つのグループの実施日は同じでなければならない。
- ・ 3人以下の通常学級は、1つのグループで実施した回数を2倍した回数を記録とする。
- ・ 特別支援学級及び小学部の学級の記録は、1つのグループの回数とする。
- ・ 通常学級の参加人数は、2つのグループの参加児童数の合計とする。ただし、3人以下の通常学級は、1つのグループの参加児童数とする。

オ 実施上の注意等

- ・ 実施場所は運動場または体育館等とする。
- ・ ドッジボール (合成ゴム製) は、1号球、2号球、3号球のどのボールを使用してもよい。
- ・ 記録挑戦の際は、原則として教師の立会いのもと実施し、計時・計測を行う。